

### 平成30年度 学校評価報告書

| 学校教育目標                          |  | 明るく、元気に、がんばる子を育てる  |                   |                                 |                        |     |    |   |  |         |      |  |  |             |             |   |
|---------------------------------|--|--|-------------------|---------------------------------|------------------------|-----|----|---|--|---------|------|--|--|-------------|-------------|---|
| 〔達成度〕 = 達成値 / 目標値 × 100         |  | 〔評価〕 4 ≥ 達成度 100, 100 > 3 ≥ 達成度 80, 達成度 80 > 2 ≥ 達成度 6, 1 > 達成度 60 |                   |                                 |                        |     |    |   |  |         |      |  |  |             |             |   |
| 中期経営目標                          | 短期経営目標   | 目標達成のための主な方策   | 評価指標              | 目標値                             | 中間評価                   |     |    |   | 年度末評価  |         |      |  | 学校関係者評価  |             |             |   |
|                                 |  |  |                   |                                 | 達成値                    | 達成度 | 評価 | 結果と課題の内容  | 今後の取組内容  | 達成値     | 達成度  | 評価   | 結果と課題の内容   | 今後の取組内容     | 年度末         |   |
|                                 |  |  |                   |                                 |                        |     |    |   |  |         |      | 評価   |  |             | コメント        |   |
|                                 |  |  |                   |                                 |                        |     |    |   |  |         |      | A  | B  | C           |             |   |
| 学<br>ブ<br>ロ<br>ジ<br>ェ<br>ク<br>ト | 確<br>か<br>な<br>学<br>力<br>を<br>育<br>て<br>る<br>学<br>習<br>指<br>導<br>の<br>充<br>実 | ・一人一人にあった学びのスタイル<br>・少人数指導や個別指導の充実<br>・外国語科の実施に向け、指導力の向上評価方法の工夫    | ・自ら学ぶ意欲を高めるノート指導。 | ・自主学習ノート<br>・家庭学習カード<br>・教師の見とり | ・進んで自主学習に取り組む児童<br>80% | 91% | 3  | ・「毎日、家庭学習・自主学習に取り組んだ」73%「自主学習の内容を工夫して取り組んだ」78%、肯定的評価が高かった。<br>・学年によって達成度に差がある。                                    | ・家庭学習・自主学習の習慣化を図るために、家庭学習の計画を立てる。<br>・自主学習の内容を指導したり、見本の提示をしたりする。         | 105%    | 4    | ・進んで自主学習に取り組んだ児童の割合が84%と向上したため、評価が上がった。肯定的評価が上がった背景としては、学力診断のためのテストに向けて意識の向上や各自の意欲的な取組が考えられる。<br>・否定的な評価をした児童に対して、個に応じた課題を設定することで、取り組めるようにしていく必要がある。                   | ・家庭学習の出し方について、来年度始めに学校内で統一すべき内容を確認する。(一律の家庭学習のから個に応じた家庭学習への転換を図る：苦手な児童への量の配慮、得意な児童は自主的に取り組めるようにする) | 2<br>/<br>5 | 3<br>/<br>5 | ・各クラスの授業を見せていたが、先生とのコミュニケーションがよく取れていた。机の配置等、楽しく授業を受けられるよう工夫されていた。<br><br>・少人数や指導や個別指導は、一人一人に合った素晴らしい学びのスタイルだと思う。すぐに結果が出なくても、継続してほしい。<br><br>・進んで自主学習に取り組んだ割合が84%に向上したことは、一人一人が学習に対し意欲をもてるように指導してきた先生方の成果である。<br><br>・一人一人に目を向けて、学力向上に取り組んでいる。子供たちがいろいろな考えで工夫しながら学習している姿が素晴らしい。<br><br>・廊下や教室に活動の足跡がある。子供たちが学校へ来るのが楽しくなるように配慮してある。<br><br>・先生たちの仕事考えると、副担任制(1クラス2名)の導入を望みます。 |
|                                 |  |  |                   |                                 |                        |     |    | ・「国語・算数の学習では、グループでの話し合いや友達との学び合いで課題解決ができた。」78%<br>・少人数学級では、問題を解くことに時間をかけられるように、教科書に沿ったワークシートを準備し、進めたことで抵抗なく取り組めた。 | ・算数は継続して、少人数学級と進度を合わせながら進めていきたい。<br>・国語も算数同様少人数で、児童に合ったプリント等を使用し進めていきたい。 | 50%     | 1    | ・少人数学級対象5・6年の国語、算数の学力診断のためのテストにおいて、昨年度比 5年+14.1、6年-6.3の結果から達成度は50%であった。<br>・少人数学級の児童のアンケートから、「授業が分かるようになった。」「自信がもてるようになった。」など、学習意欲や学習環境に対して、児童から肯定的な回答(ほぼ100%)が高く見られた。 | ・市算数・数学学力向上講師支援講師を活用し、算数科において少人数指導の授業の実践を行っている。<br><br>・各学年の算数の時間の取り方・授業の流し方について検討していく。            |             |             |   |
|                                 |  |  |                   |                                 |                        |     |    | ・外国語科の具体的な評価場面や評価方法の工夫。   | ・市指導主事、市専門を招いての研修  | ・年間3回以上 | 100% | 4  | ・市指導主事を招いて、授業研究会を実施し、授業についてのご指導をいただいた。   |             |             |   |

|                                 |  |  |   |                             |                |              |   |   |   |  |   |   |   |             |             |  |
|---------------------------------|--|--|---|-----------------------------|----------------|--------------|---|---|---|--|---|---|---|-------------|-------------|--|
| 思<br>プ<br>ロ<br>ジ<br>ェ<br>ク<br>ト | 豊<br>か<br>な<br>心<br>を<br>育<br>む<br>教<br>育<br>活<br>動<br>の<br>推<br>進 | ・学校が楽しいと感じる児童を育てる<br>・友達と協力しながら活動するのが楽しいと感じる児童を育てる           | ・児童一人一人に自己存在感や自己有用感を与える学級活動、委員会活動、学校行事、ボランティア活動等。 | ・児童の自己評価（アンケート）<br>・教職員の見とり | 肯定的評価<br>80%以上 | 肯定的評価<br>106 | 4   | ・高学年になるほど、自己有用感が高い。委員会、学校行事など中心になって取り組んでいることからの結果であると思われる。<br>・クラスにより結果に偏りが見られる。アンケート実施時の説明の仕方に要因があったと思われる。 | ・友達に認証されていないと感じている児童への対処(全体での声かけ、意図的な称賛)  | 113%                                   | 4   | ・評価が上がった背景には、高学年では、運動会や一まつり等での実行委員会の活動、低・中学年では、学級での児童主体の取組が考えられる。<br>・自己有用感の高揚については日常的な意図的な賞賛が必要であると考える。          | ・一人一人が能動的に活動できる学級活動、委員会活動、委員会活動等の展開。<br>・より児童主体となる学校行事の展開。                          | 4<br>／<br>5 | 1<br>／<br>5 | ・挨拶は大きな声になっていると思う。<br><br>・PTA 奉仕活動では、保護者より子供の方がよく働いていて、ちょっと違和感がある。<br><br>・高学年の教室に一人一人の目標が書いてあった。このように意識付けを図ってほしい。<br><br>・学校内の清掃・整理整頓がよくできている。<br><br>・通学時、明るく楽しく通っている様子が見える。<br><br>・あたごの広場をもっと活用してみては？ |
|                                 |  | ・児童一人一人に自己決定の場や機会を設ける学級活動。                                   | ・児童の自己評価（アンケート）<br>・教職員の見とり                       | 肯定的評価<br>80%以上              | 肯定的評価<br>111%  | 4            | ・クラスにより結果に偏りが見られた。アンケート実施時の説明の仕方に要因があったと思われる。                           | ・学校教育活動全体を通して、自己決定の場は多く設定している。このまま継続していく。   | ・評価が上がった背景には、学級活動や道徳の時間等を含め学校教育活動全体を通して、多くの自己決定の場が設定されたためであると考える。                 | ・学校教育活動全体を通して、自己決定の場をさらに多く設定していくようにする。 |   |   |   |             |             |  |
|                                 |  | ・児童同士が、相手を思いやり、協力し合いながら活動することで、育む児童間の絆づくり。                   | ・児童の自己評価（アンケート）<br>・教職員の見とり                       | 肯定的評価<br>80%以上              | 肯定的評価<br>118%  | 4            | ・クラスにより結果に偏りが見られた。アンケート実施時の説明の仕方に要因があったと思われる。                           | ・運動会、一まつり等の行事に合わせて、気持ちを高められる場を設定する。   | ・評価が上がった背景には、なわとび大会や一まつりでの学年発表等、学級や学年で協力し合う活動を通して児童相互の「絆づくり」ができたためであると考える。        | ・児童間の「絆」が育まれる学校行事、学年・学級活動の意図的な展開。      |   |   |   |             |             |  |
| 逞<br>プ<br>ロ<br>ジ<br>ェ<br>ク<br>ト | 健<br>や<br>な<br>体<br>を<br>育<br>む<br>教<br>育<br>活<br>動<br>の<br>展<br>開 | ・「考え議論する道徳」の実現により、道徳的实践力を高める<br>・体力づくり、運動に親しむ態度、心身共に逞しい児童の育成 | ・魅力的な教材開発や授業作り<br>・具体的な評価場面や評価方法の工夫               | 児童の自己評価（アンケート）              | 肯定的評価<br>80%以上 | 112%         | 4   | ・「友達の意見を聞く場面がたくさんあった。」「道徳の学習は自分にとって大切な学習である。」において肯定的評価が高かった。全体としても、目標を達成することができた。                           | ・「自分の生活と比べながら考える」ことができるような課題設定や授業展開の工夫<br>・発言回数が少ない児童に対する見取りの工夫<br>・議論する場の設定とその評価 | 116%                                   | 4   | ・道徳の授業に対する肯定的評価の割合が高く、全体的に目標を達成することができた。「自分の生活と比べながら考える。」において85%から89%に上昇した。                                       | ・自分とのかかわりで道徳的価値を考えることができるような発問や問い返しの工夫。<br>・児童の変容を継続的にみとるための評価の工夫。(配慮を要する児童への対応も含む) | 3<br>／<br>5 | 2<br>／<br>5 | ・岩間一小は、児童一人一人の心の変容を心優しくみとる教師集団であると思う。これからも、児童と一緒に遊ぶことのできる教師であってほしい。<br><br>・相撲場や縄跳台など、児童が体を動かす環境が整えられてきている。休み時間など、積極的にグラウンドで遊ぶ姿が多く見られた。<br><br>・持久走・縄跳び大会などを通して、体力作りに親しみ、友達と協力して学んでいる成果が数値に出ている。           |
|                                 |  | ・サーキットトレーニングや業間運動の継続的な実施                                     | 体力テスト   | A + B<br>の児童<br>65%<br>以上   | 90%            | 3            | <学年別課題><br>1・2年 シャトルラン 持久走<br>3年 幅跳び<br>4年 反復横跳び<br>5年 幅跳び<br>6年(女子) 全て | ・業間マラソンの継続(目標の明確化)<br>・縄跳びの励行(持久力・跳躍力アップメニューの提示)<br><br>・サーキットトレーニングの提示                                     | 持久走<br>自己目標達成<br>98%  | 3                                      | ・体力テストの目標はおおむね達成できた。<br><br><学年別課題><br>1・2年 シャトルラン 持久走<br>3年 幅跳び<br>4年 反復横跳び<br>5年 幅跳び<br>6年(女子) 全て | ・体力テストの結果をふまえて運動委員が作成したトレーニングメニューを精選し、学年ごとに提示する。<br>・持久走では適切な自己目標の設定の仕方を指導する。<br>・基礎体力の向上を図る。<br>(業間マラソン、なわとびの励行) |   |             |             |  |
|                                 |  | ・保健委員会、給食委員会による自己管理能力の啓発                                     | 生活リズムチェック   | 早寝<br>70%以上                 | 120%           | 4            | ・生活習慣に関しては、全体としては目標を達成できている。<br>・各家庭や児童の意識による個人差は大きい                    | ・生活リズムチェックや保護者へのお便りによる意識啓発。<br>・全体への指導と   | 早寝<br>114%  | 4                                      | ・目標を達成できている。2学期は低下が見られた   | ・家庭とも連携し、全体への指導と個別への指導を継続して   |   |             |             |  |

|                |                    |               |                   |   |   |      |   |  |  |          |   |   |  |             |             |  |  |  |
|----------------|--------------------|---------------|-------------------|---|---|------|---|--|--|----------|---|---|--|-------------|-------------|--|--|--|
|                |                    |               |                   | 朝食摂取状況チェック  | 朝ごはん90%以上                                   | 106% | 4 | い。   | 個別指導を継続していく。                                       | 朝ごはん103% | 4 | ので啓発が必要。  | いく。  |             |             |  |  |  |
| コミュニティ・スクールの運営 | 岩間中学校コミュニティスクールの運営 | 学校運営協議会の発足の準備 | 学校運営協議会組織の人選及び組織案 | 組織案   | 校長、担当職員、保護者、地域の皆さん、教育委員会から学校運営協議会が組織される。80% | 100% | 4 | 学区コミュニティ会議（10月3日）で組織概念図が出された。                      | 学校運営協議会8名以下の人選していく。                                | 125%     | 4 | ・教育活動をサポートしていただける個人や団体を洗い出し、協力依頼をすることができた。  | ・運営協議会の組織や運営体制をより周知していきたい。   |             |             |  |  | ・身軽に動けるような方向になればよい。<br>・学区内ボランティア等の組織と育成が必要になってくるのではないか。<br>・ボランティアなど多くの地域の方々と協力している取り組みはよい。<br>・地域の回覧板での学校便りの配布もよい。ブログの更新もまめでもよい。今後も続けてほしい。 |
|                |                    |               | 年間スケジュールの作成       | ・各学年の教科及び領域など学習支援に関するボランティア活用計画<br>・学校行事や環境整備など学校運営に関するボランティア活用計画 | ・ボランティアの年間活用スケジュールを完成させる。80%                | 65%  | 2 | ・今年度の実績を生かして、年間スケジュールを作成する計画でいる。ボランティアの活用事例を収集したい。 | ・今後も、継続してどのような教育活動や、環境整備等に関われるのか、模索しながら実績の構築に努めたい。 | 86%      | 3 | ・新入生の給食指導や高学年のミシン指導、持久走大会の運営補助など時期に合わせて多くのボランティアに協力をいただいた。年間を通しての学習補助ボランティアの7名にも定期的に参加してもらい、児童の活動をサポートすることができた。 | ・教育計画や学校行事に基づいてボランティアの協力を頂くことができたので、来年度はより明確なスケジュールを作成し、今後も継続して協力してもらえる体制を整えていきたい。 | 3<br>／<br>5 | 2<br>／<br>5 |  |  |  |